

本校は、県教育委員会から平成 27 年度「生きる力」を育む研究指定校事業 心の教育研究推進校の指定をいただきました。本校の教育目標は「夢があり 心があり 力がある生徒の育成」ですので、教育目標の実現のために、この研究指定をチャンスと捉え、職員一丸となって積極的に取り組むことにしました。

研究主題を「自他のよさを認め合い、互いに高め合う生徒の育成」と設定し、道徳や特別活動、各教科の授業を中心に、よりよい人間関係づくりと学び合う授業づくりを通して、主題の実現を目指してきました。

本日ここに発表会を開催できることをたいへんうれしく思いますとともに、ご来校いただきました皆様及び関係各位に感謝申し上げます。本研究はまだスタートしたばかりで、課題も多くあります。諸先生方のご意見とご指導を賜り、今後の研究を深めて参りたいと思っています。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたりまして、懇切丁寧なご指導、ご支援を賜りました熊本県教育委員会、芦北教育事務所、水俣市教育委員会、関係学校の皆様に心からお礼申し上げます。

## 1 主題設定の理由

### (1) 学校教育目標から

本校の教育目標は「《地域の教育力をベースに》～夢があり 心があり 力がある生徒の育成～」となっている。この学校教育目標を受け、生徒一人一人が自分の将来の夢や、学校生活、学習面等に対する目標を持ち、その実現に向かって積極的に取り組もうとする心や力の育成を目指していきたい。そのためには、生徒個々が自分自身をしっかり見つめ、他の様々な立場の人たちから学ぶとする姿勢を育てることが必要であると考え。さらに、生徒が一番長い時間を過ごしている学校生活、その中でも授業時間において、安心して学ぶことができるためのよりよい人間関係を築くような取組を行っていくことで、自他のよさを認め合い、互いに切磋琢磨しながら高め合うことができれば、自分の夢実現に向かって努力していく生徒が育成されるのではないかと考えた。さらに、家庭や地域との連携を図りながら、このような取組をすべての教育活動において実施していくことにより、地域に対する愛着やスクールプライドが高まることを願い、本テーマを設定した。

### (2) 学力調査等の結果から

#### ア) 標準学力検査の結果から

＜学校全体の平均偏差値の経年変化＞

	H25	H26	H27	概観
偏差値	51.4	50.9	50.4	継続的に下降傾向である

成就値は全国比でやや低い。個に応じた指導の充実が課題である。

＜学年別の平均偏差値の経年変化と成就値＞

現学年	1年次	2年次	3年次	成就値
現3年生	53.1	51.3	49.5	-2.1
現2年生	53.0	49.4	-	-2.1
現1年生	52.5	-	-	+1.5

#### イ) 県学力調査の結果から (県の定着率を上回った項目数)

現学年	1年次	2年次
現3年生	41 / 49	22 / 48
現2年生	10 / 49	-

#### ウ) 全国学力・学習状況調査 (平成26年度実施) の結果から

##### (7) 学習態度・学習習慣に関わること \*全国学力・学習状況調査の「当てはまる」と本校生徒との比較

友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。	- 7.8
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。	- 6.3
家で、学校の授業の予習をしていますか。	- 7.4
授業の復習をしていますか。	- 8.6
学校に行くのが楽しいと思いますか。	- 7.8
将来の夢や目標を持っていますか。	- 7.4
学校の授業時間以外に、平日、一日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。	- 7.4

(イ) 生活体験に関すること

ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことはありますか。	－ 22.6
学級みんなで協力して何かをやり遂げて、うれしかったことはありますか。	－ 30.8
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	－ 9.1

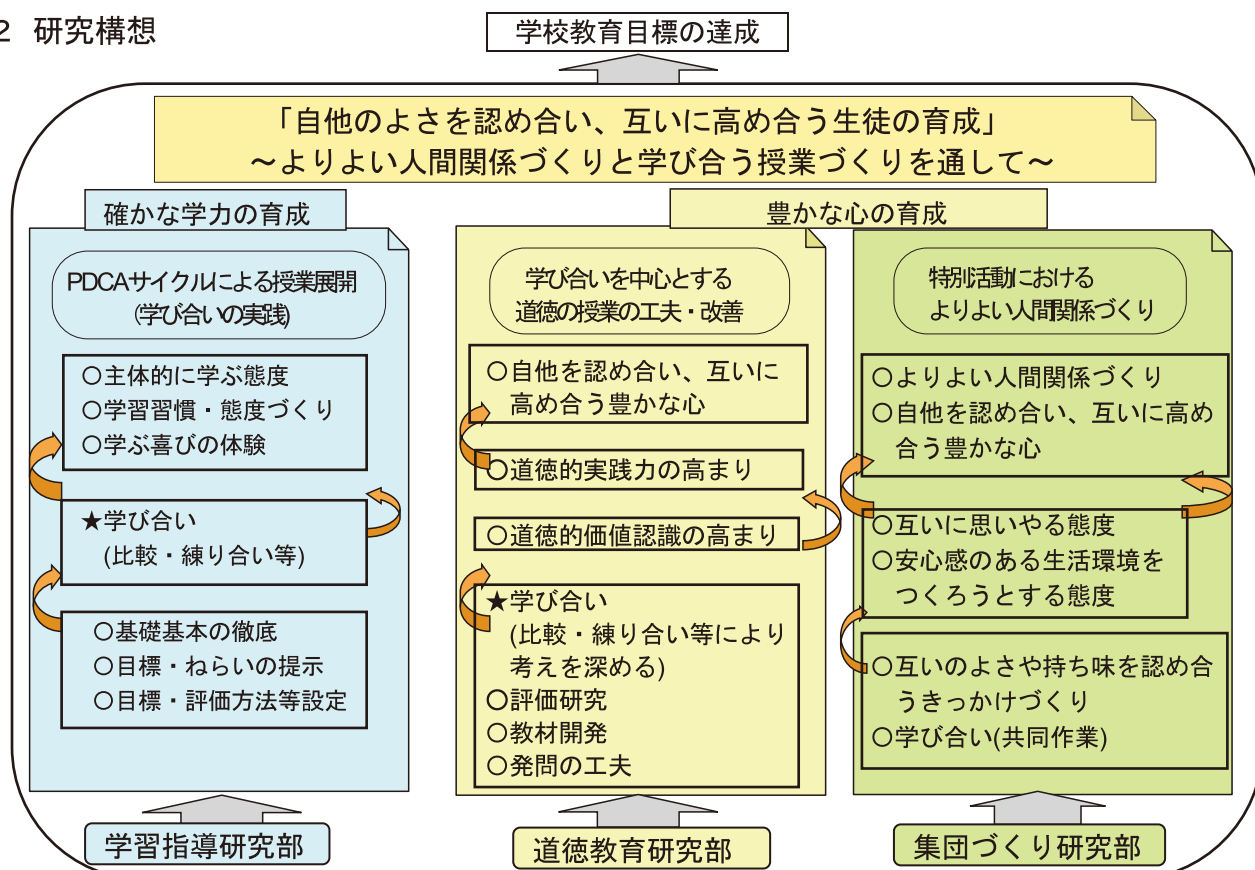
(ウ) 自己認識に関すること

自分にはよいところがあると思いますか。	－ 17.4
地域や社会をよくするために何をすべきか考えることはありますか。	－ 6.5
人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。	－ 16.4

(3) 日常の態度・習慣より

公共心や規範意識などの道徳性に課題がある。また、生徒の思考や発想が固定化しがちで、学校外のことにも目を向けさせる必要性がある。さらに、自己肯定感が著しく低い傾向にある。学校生活において学級・学校のために何か役に立つような行動を起こす利他心を高める必要があることから、ともに学び合い、自己を見つめさせ道徳的価値を認識させながら自他を思いやる心を育てる必要がある。

2 研究構想



3 研究の仮説

1) 各教科において、評価を念頭に、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得とともに、自ら根拠をもった考えを持ち、自らの考えを述べ合い、友だちの考えと比較しながら多様な考えに気づき、思考を深めたりするなどの「学び合い」の場面を各教科の授業で計画的に展開していけば、知識・技能の活用力を高めるとともに、ともに学ぶ喜びを感じ、主体的に学ぶ意欲が身につくであろう。

2) 道徳の授業において、評価を念頭に、教材開発、体験活動や発問、活動を工夫して、「学び合い」の場面を継続的に展開していけば、道徳的価値の認識を深めることができ、自他を認め合い、高め合う豊かな心が身につくであろう。

3) 行事や生徒会活動、学級活動を中心として、互いの良さや持ち味を感じさせる工夫をしてこちよく生活する環境づくりをしながら、協同での取組を展開していけば、互いに思いやる態度や、安心感のある学校生活をつくっていくという態度が身につくであろう。